

令和5年(2023年)年頭所感

一般社団法人全国高圧ガス容器検査協会
会長 白砂 清一

令和5年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。
平素は当協会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

コロナ禍の中、容器検査事業者は比較的安定した事業を継続し保安の確保と安定供給に努めてきました。

本年の容器検査対象本数は約459万本と前年より4.8%減少となりますが、来年度は490万本に回復する見込みであります。

バルク貯槽20年告示検査は来年度にピークを迎えますが、くず化の進捗状況は全国LPガス協会のアンケート状況によりますと、告示検査で対応が12%、くず化してリプレースが51%、くず化してシリンダーへ入れ替えが37%となっています。但しバルク貯槽告示検査改正によって合理化が検討されており、25年日以降の検査が緩和されることになると若干告示検査での対応が増える見込みとなります。2023年、2024年バルク貯槽のくず化基数がピークを迎えますが、関係者皆様のご協力もあり順調に処理が出来るものと思います。またバルク貯槽からシリンダーへの入れ替えが進むことから容器検査対象本数は少し増加する見通しです。



またFRP容器の再検査において法令改正があり、医療用酸素用一般複合容器の再検査期間が3年から5年に変更となりました。在宅酸素療法で用いられているFRP容器の再検査期間は3年と定められていますが、現在製造されている容器の多くは大臣特認取得により再検査期間は5年となっています。この様な実態を踏まえ、合理的な安全規制を実施する観点から再検査期間を3年から5年に延長する事になり、医療用酸素用一般複合容器と定義されました。この件についてはホームページで周知を行ったところです。

昨年9月に東名高速道路上でLPガス容器が荷崩れを起こして路上に散乱し爆発炎上する事故が発生しました。この事故で前方に停車していた2台の車両が火災・爆発に巻き込まれ1名が死亡、2名が負傷する惨事となりました。積載方法に問題があったようですが、高圧ガスを取り扱う者として十分な取り扱いに注意をしたいと思います。

新年を迎えるにあたり、会員・賛助会員・関係団体の皆様と連携を強め、これからも事業を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、保安を担う協会として取り組んでまいります。本年も皆様の益々のご健勝とご発展を祈念して新年のご挨拶と致します。